



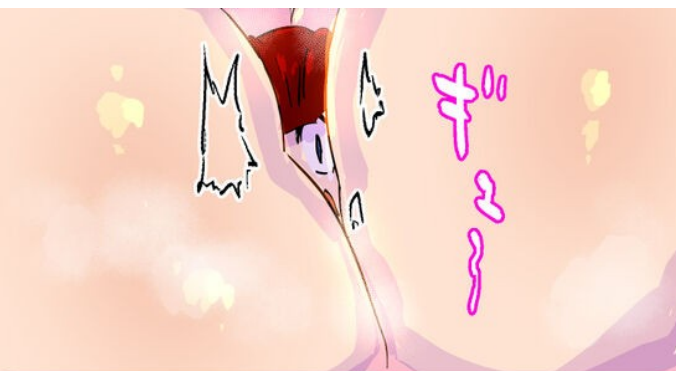
お前を倒すために
強くなったんだっ!!

因縁のおっぱい妖怪に 挑んだシヨタ退魔士

～鬼房山の乳妖怪～

強制授乳・巨根改造・知能低下

再敗北!?



現代、魔物や妖怪といった
数多の脅威が
人知れず確かに
そこにある世界。。

人のいとなみを守るため、
それを狩るモノたちの話



以前『乳っこかつぎ』

という妖怪に敗北し

体を赤ん坊まで戻され

戦う力を奪われた

少年退魔士『山姫^{やまひめ} 多田羅^{ただら}』

それから二度と負けないようにに

他の退魔士の協力のもと

数年間の修行を経てふたたび

人外の脅威と戦えるほど強くなり、

これ以上

不幸な犠牲者を

出さないために

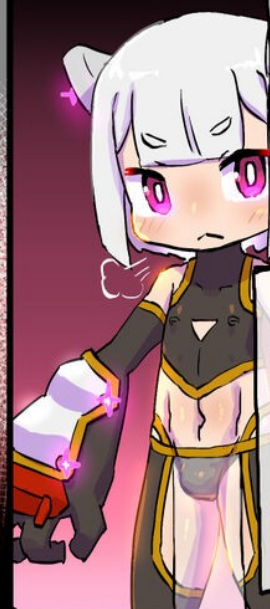
多田羅は

妖怪たちと

日夜戦っていた

他の退魔士は
現在別の任務に
あたっていたため

多田羅は単独で
この任務に来ていた
復帰して初めての
単独任務だった



とある町で
行方不明事件が
多発していて
その解決のために
退魔士たちに依頼が来た

これほど短期間で
人が消えているのに
痕跡も目撃情報も
見つからない

町の人たちは
不安で
たまらない
だろうな…
絶対に
解決しよう！

目的をしっかりと
見据える事で
心細さは消え
決意がみなぎった



おにふさやま
鬼房山

入山時刻 17時08分



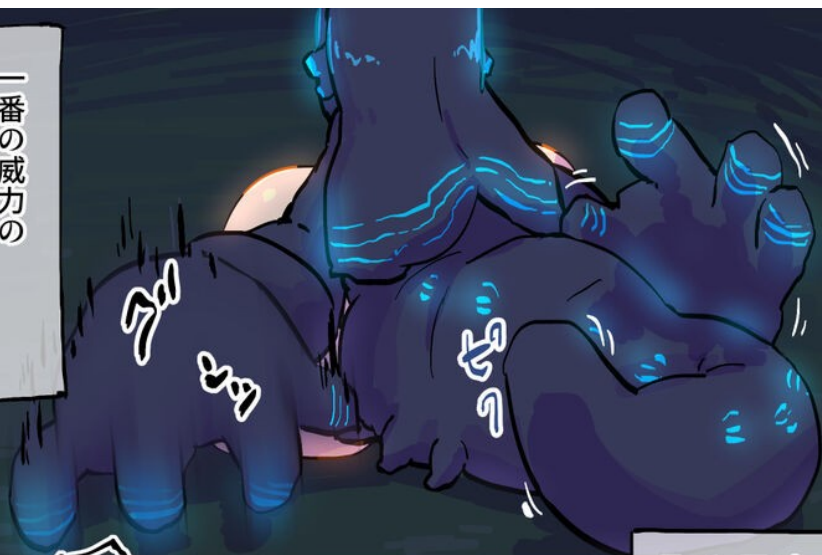
こいつは…!!
この甘ったるい
練乳みたいに
粘つく妖気
まえに
どこかで…!!

赤ん坊の状態での
記憶だったので多田羅は
おぼろげながらにしか
覚えていないが
自分をこんな姿にした
張本人だと感覚的に理解した

恐らく今回の
事件の犯人
食事中なのか
多田羅に
気づいて
いないようだ

こいつ…

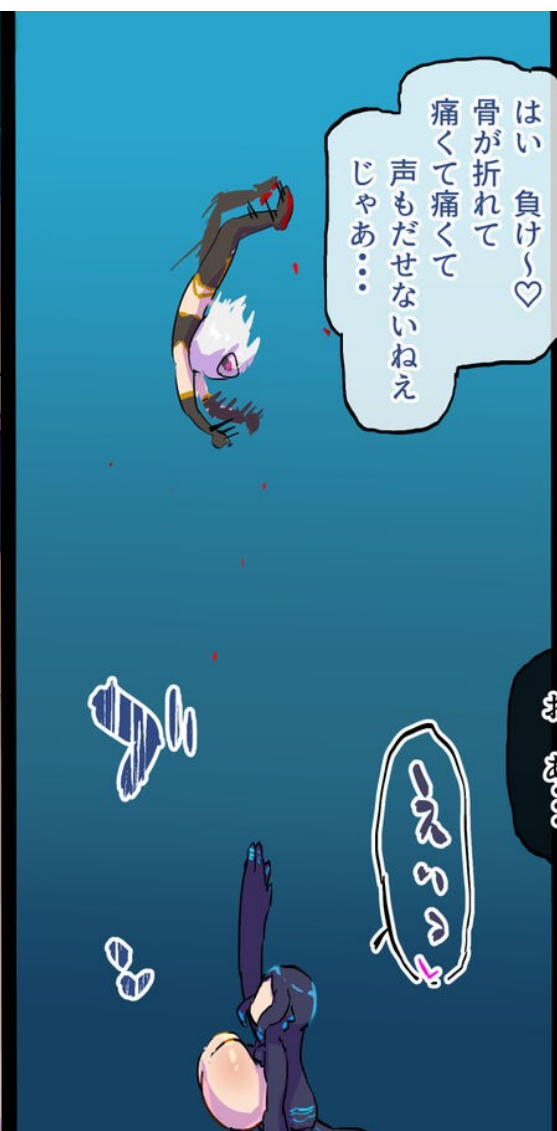
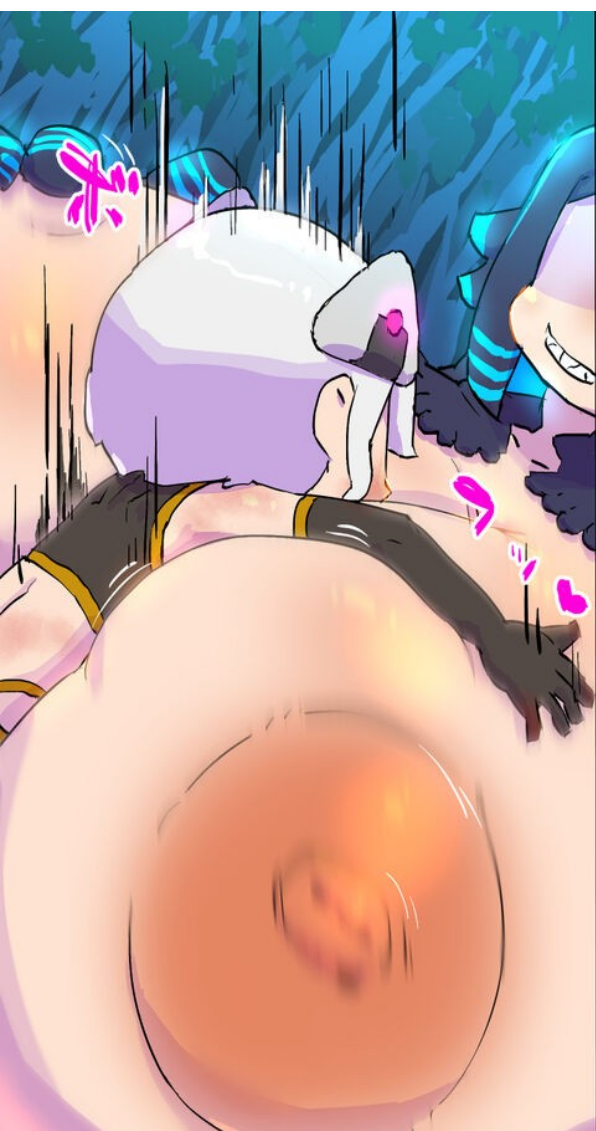
一番の威力のある必殺技で背後から不意をついた攻撃をしかけたはずだったが…



空気の振動で察知されて巨大な両腕で挟み込まれるそのまま、怪力で骨を砕かれてしまった

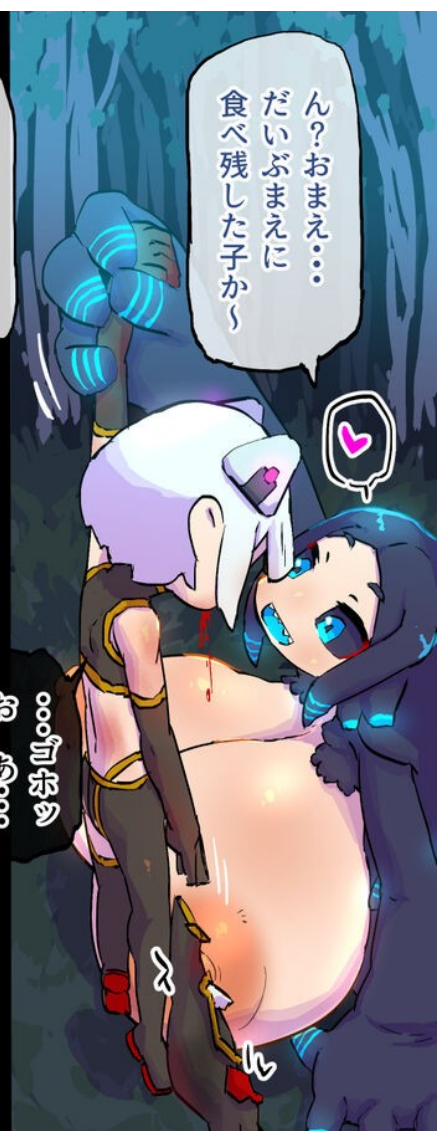
数百人分の生命で強くなった乳っこかつぎにはまったく歯が立たなかった





はい 負け♡
骨が折れて
痛くて痛くて
声もだせないねえ
じゃあ...

えええ



ん？おまえ...
だいぶまえに
食べ残した子か

おあ...
おあ...
おあ...



逃げるまもなく
巨大な乳房に
挟まれ...

おもしろい♡

せつかく
あえたんだ
母のおっぱいで
ゆっくりちまちようね…♡

…あ、う
ここ…は？

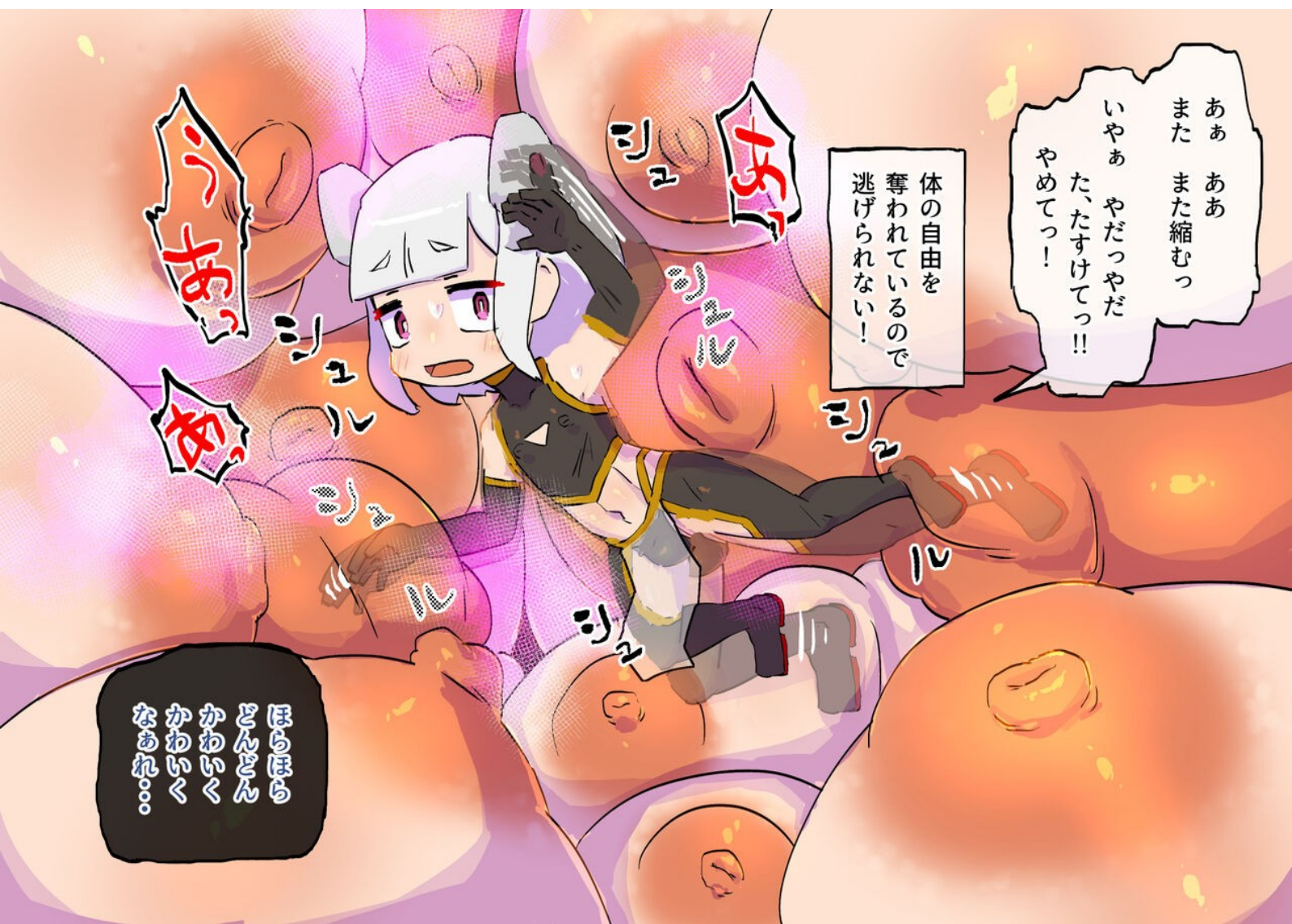
ここは私の
おっぱいの中だよ

…?!
ああっああ！
だしてっ
ココはいやだっ!!

多田羅に敗北の記憶が
よみがえるが
ここに入ったらもう
逃れる事はできない…

ふふ かわいいかわいい
もっとかわいいく
なりましようね…♡

ここは《無限乳牢》
対象の命をじっくり安全に
吸い取るために
乳っこかつぎが作った別次元
言霊により捕らえた者を強制的に
従わせる事もできる



ああ ああ
また また縮むっ
いやあ やだっやだ
た、たすけてっ!!
やめてっ!

体の自由を
奪われているので
逃げられない!

ほらほら
どんどん
かわいく
かわいく
なあれ...



う、うでもあしも…
からだも…
全部ちいさく
なっちゃった…
うう… こんな…
やだあ…
やだやだやだ…

やだあ…
やだあ…
やだあ…

ふふ かわいいねえ
ほくら 頭の中も
心も ぜんぶ
幼子になっていくよ
母でちゅよ♡



せつかくの再会をすぐに
終わらせるのも
もったいないと、
(行方不明者からうばった)
生命エネルギーを
たっぷり含んだ母乳を
乳っこかつぎから
授乳される多田羅

ほらあ母の
おっぱいのんで♡

(か 体が 勝手に…
あ のんじゃだめ これ
のんじやったら…
ままのおっぱいのんだら)
あむっ んく んく
んっ ちゅぱっ ん♡

差し出された乳首に
無心になって
むしゃぶり
ついてしまう…

邪魔な布を
脱ぎ脱ぎしまちようね♡
ひとりのできるかな？

多田羅の
頭の中で響く
母の言葉…

できるよお
んしょっ
んしょ
んしょっ

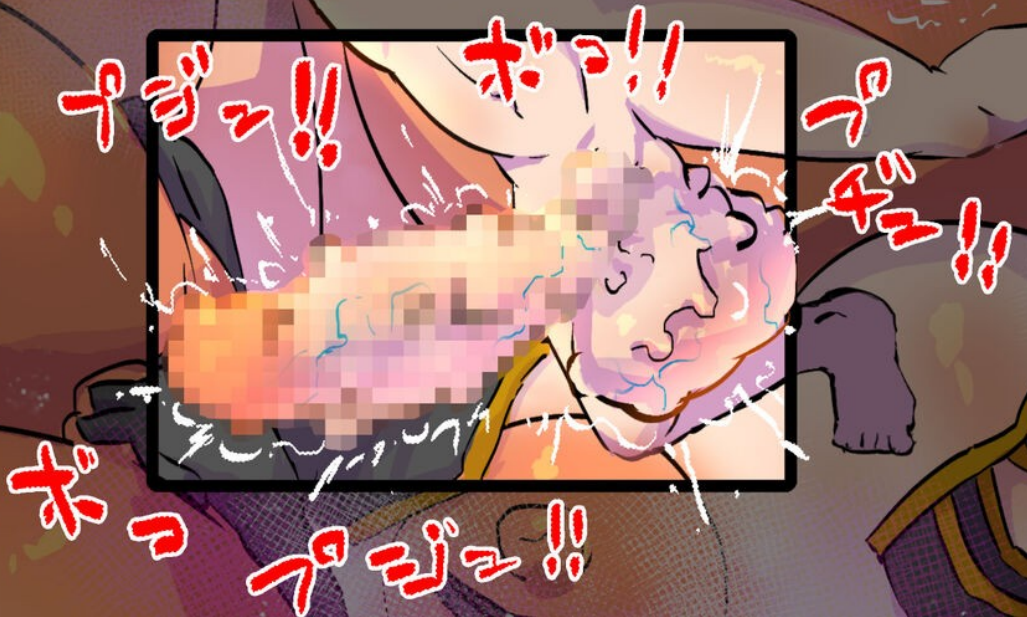
ブカブカの戦闘服を
脱がさせて
怪しく笑う乳っこかつぎ

あらあら…
頭のへんなのが
じゃまで
つかえて
しまってるわ
ホラ♡
おちついて♡
ふふっ
いっぱい飲んだから
変化が楽しみ♡



多田羅が
服を脱ぎ終わると
チンチンとキンタマの
皮膚表面が
沸騰したかのように
波うちながら
ボコボコと音をたて
肥大化しはじめた…

はっあアwあt
♡A? あ ああtー
?!V1
…っ?!
あ…
があああッ…ッッッ



がんばれ♡がんばれ♡
ほらほら
おとこのこでしょ♡
肉が増えて
皮膚がはじけて
つながってる痛みくらい
へいきなはずっ♡
がんばれっ♡



多田羅はひたすら
肉が増殖する
痛みに耐え続け
意識がもうろうとしていた
痛みが止んだので
ふと下を見ると…



ほらほら
チンポが
白いオシッコ
だしたがつてるぞ？

キンタマきゅって♡
ぐっぐっ♡
タブタブ♡
びゅ〜びゅ〜♡
びゅぶぶって
したいよ〜って♡

大きく下品に
仕上がった
化け物サイズの
チンポとキンタマが
媚熱を発している

あうあ… だめえ
だめ お射精いい
もらしいびゅっびゅしちや
だめ ママのおもうつぽ…

痛みでちよっぴり
正気をとりのどした
多田羅は
ゆだった脳みそで
必死に考えるが…

巨大で
やわらかな乳房が
多田羅に折り重なる

どおちたの？
はずかちいのかな？
ほおら♡ほおら♡
びゅ♡こいこい♡
びゅ♡びゅ♡♡

んぎょい
やめて
やめ...
あ♡♡♡♡
あ♡♡♡♡





我慢だ。。。
がまんがまんがまん。。。

おっばいがまん。。。
ママのおっばい。。。♡
がまんおっばい。。。♡

全身おっばいにつつまれて。。。♡
おふとんみたい。。。♡ ふわぁ
しっとり♡ ふかふか。。。♡
きもちいい。。。おちつく匂い。。。♡
これ 嗅いでると。。。♡ だめ。。。♡
。。。♡。。。♡

必死に我慢する
多田羅だった。。。♡



たった一言で
射精我慢は
決壊した

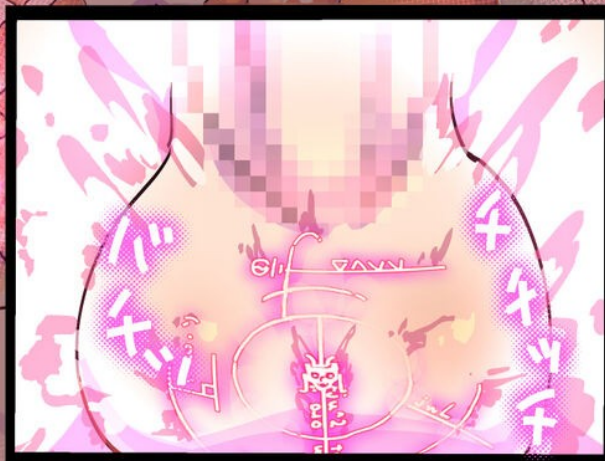
しかし多田羅は
敗北することを想定して
あらかじめ自分の精果に
術式を仕込んでおいた

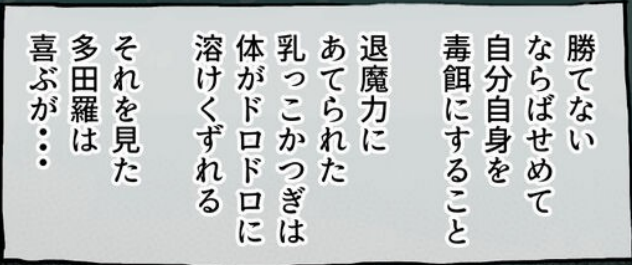
それは射精と同時に
全ての退魔力を開放する
最後の手段

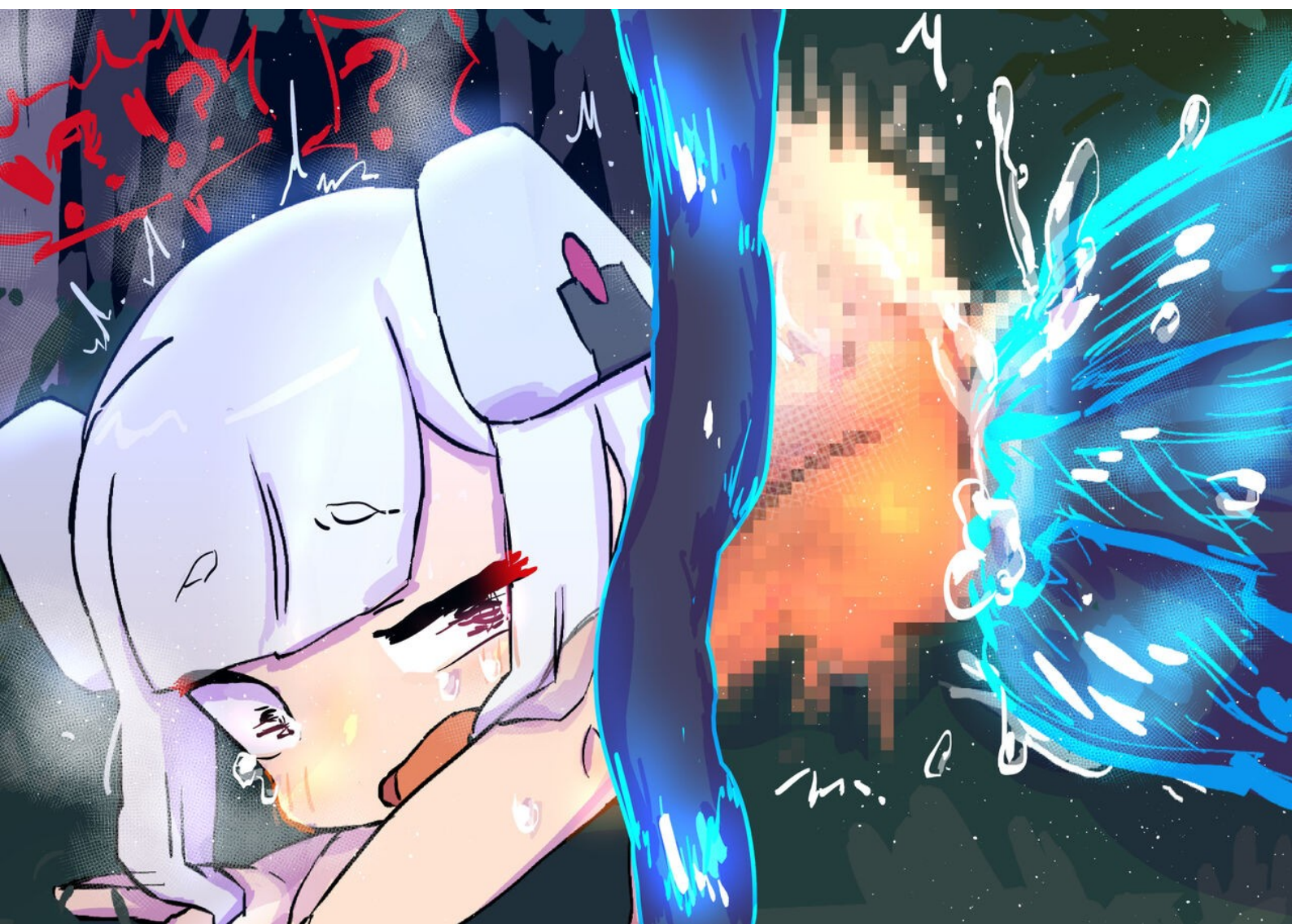
ザ
オ

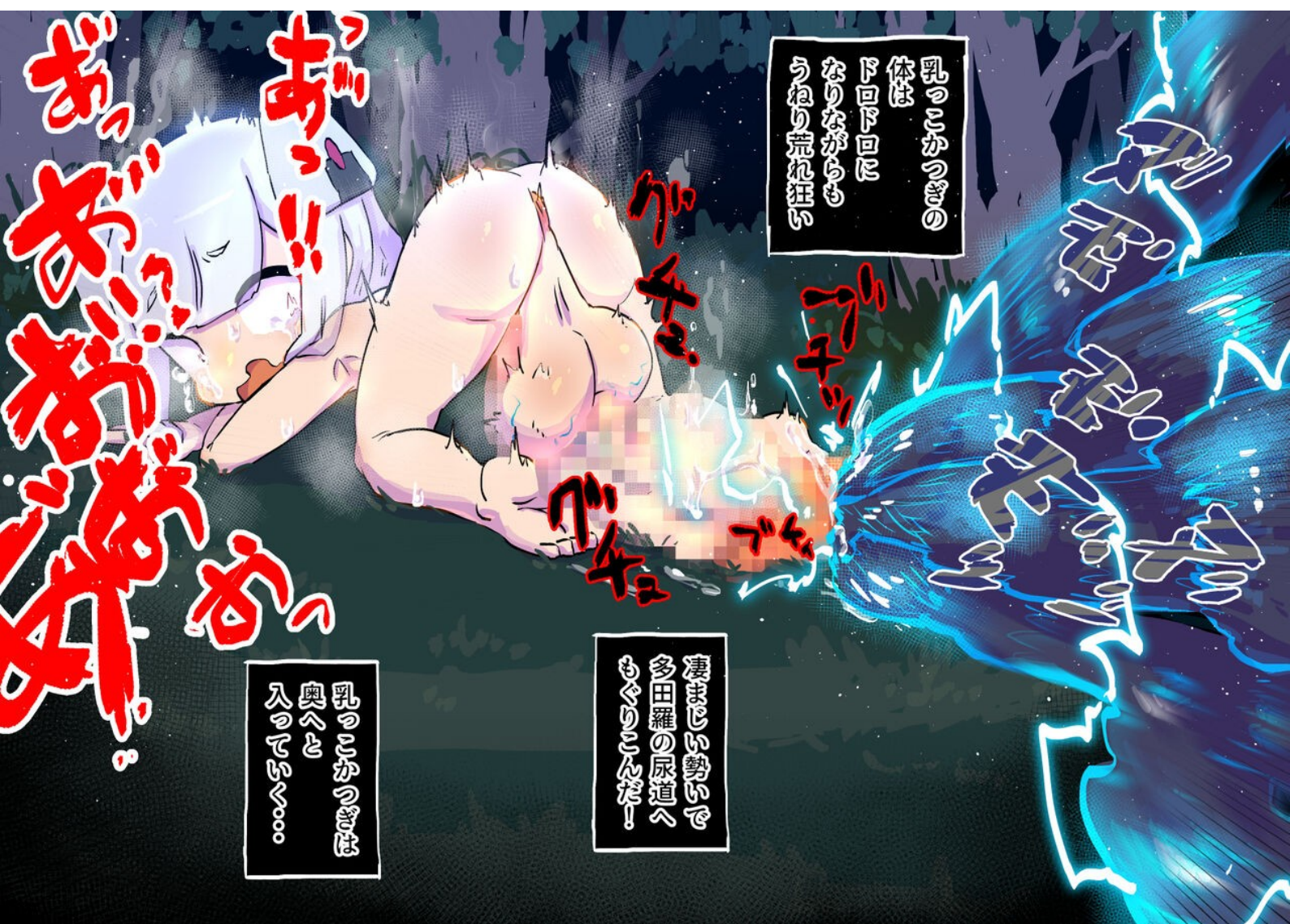
ザ

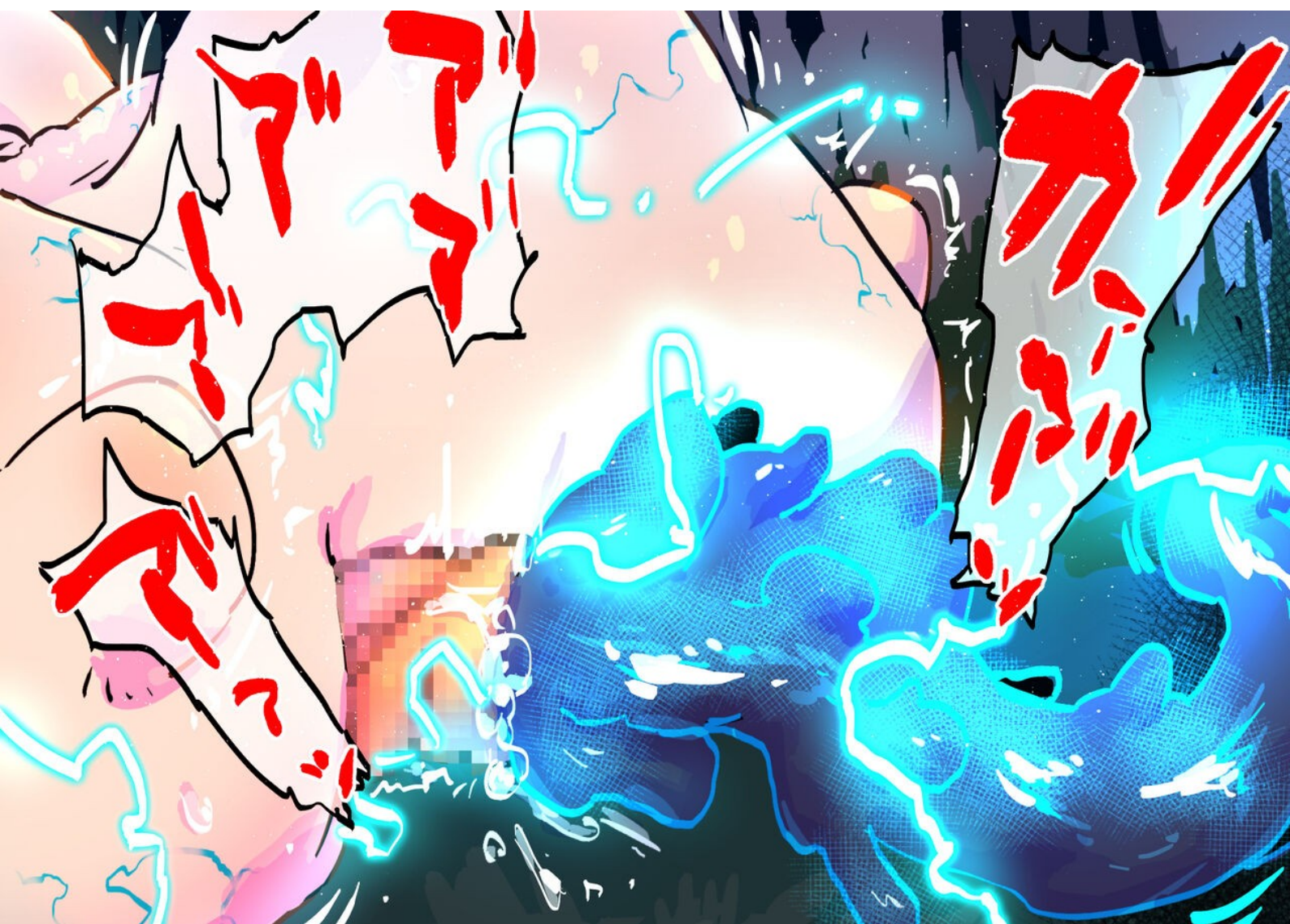
乳っこかつぎは
油断している状態で
もるに退魔力を
食らう事になった
たまらず多田羅を
無限乳牢から放り出す











満身創痍で
何もできず

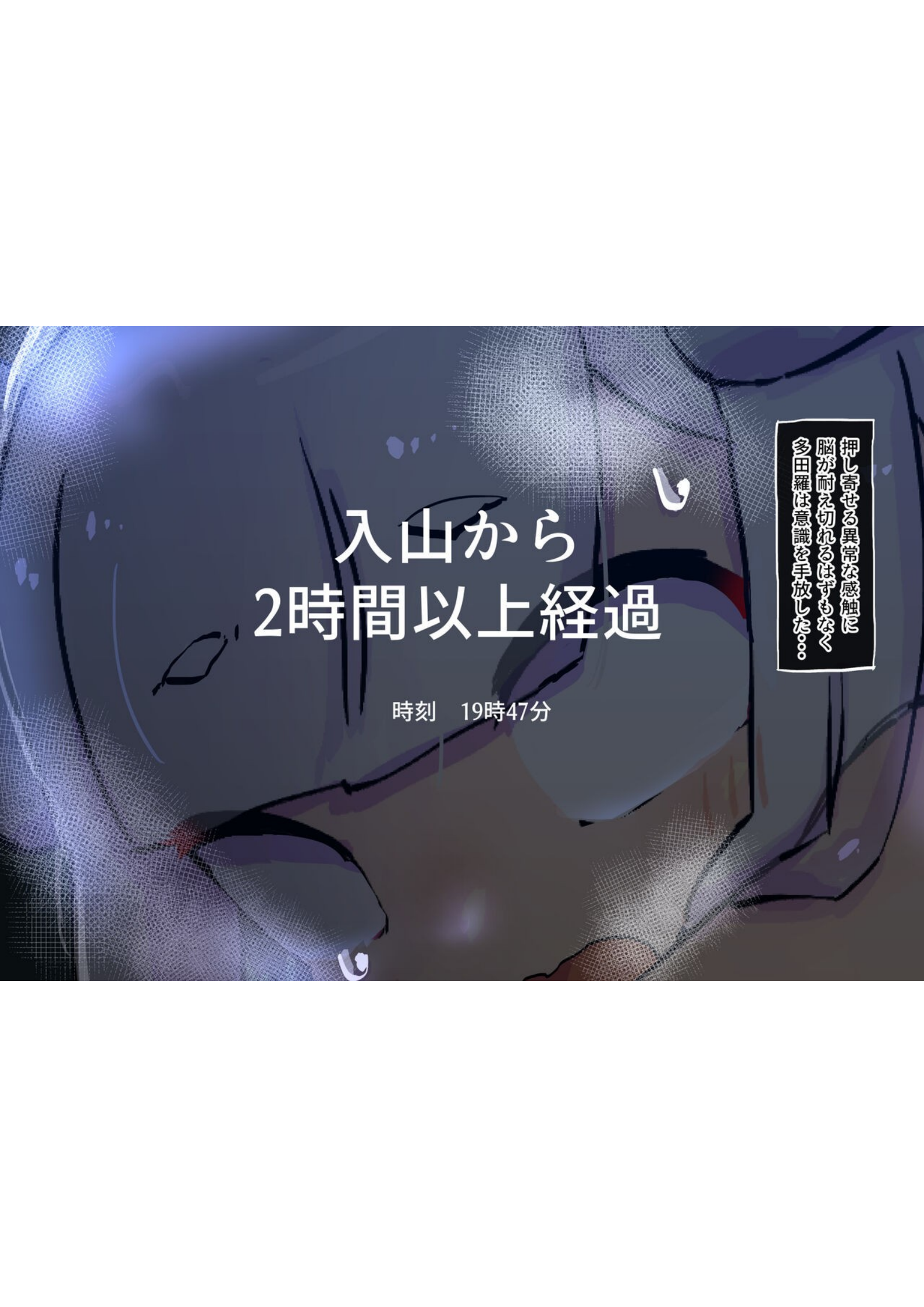
鈴回^{すゐ}の筋は
ちぎれて
尿道は限界を
超えるまで拡張

本来出す事にしか
使わない器官へ
無理やり
入り込んでくる
気持ち悪さ

粘膜をヤスリで
ゴリゴリと
削られている
ような激痛

キンタマへ入り込み
精果を押しつけて
泥状の
乳っこかつぎが蠢く





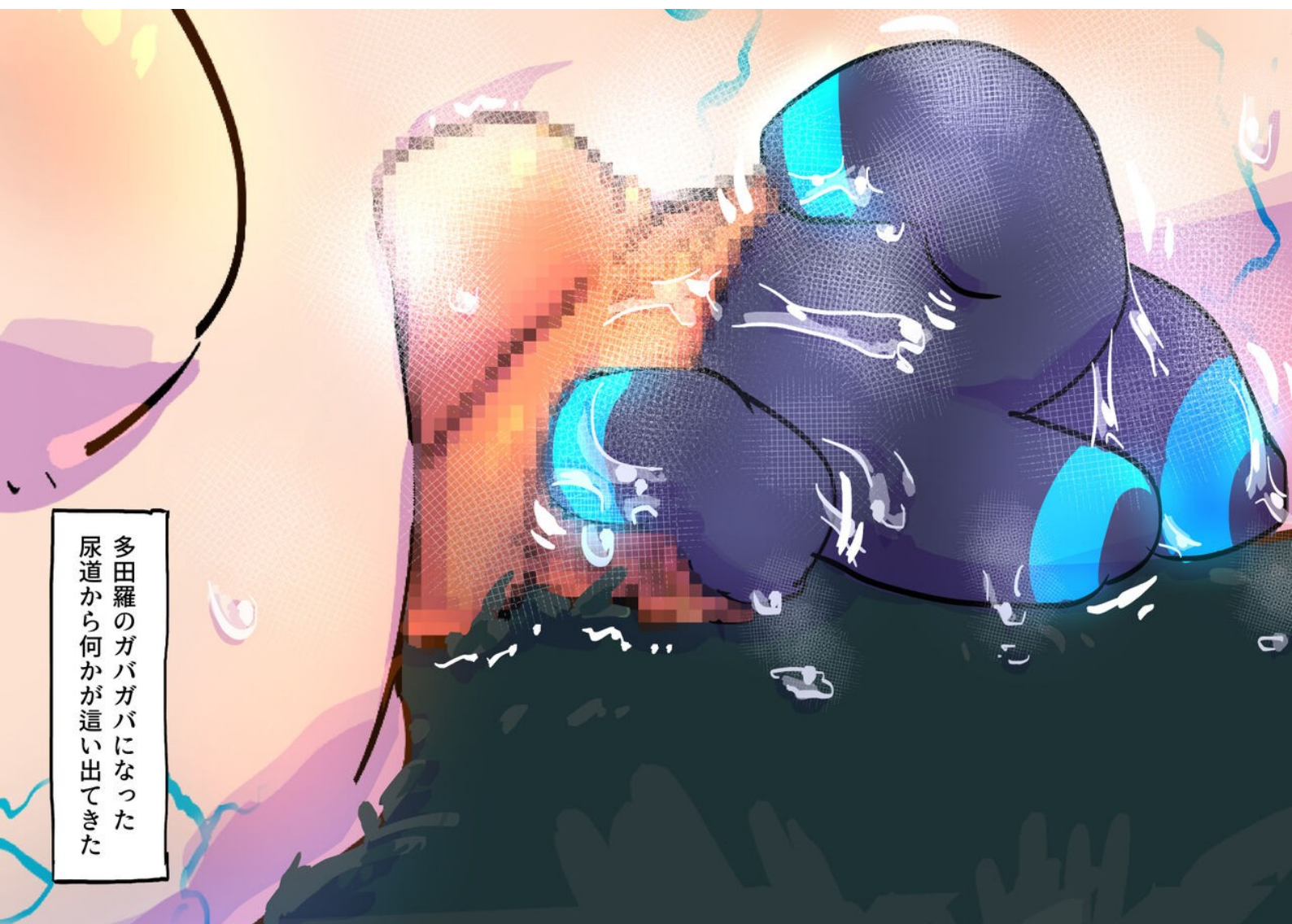
入山から 2時間以上経過

時刻 19時47分

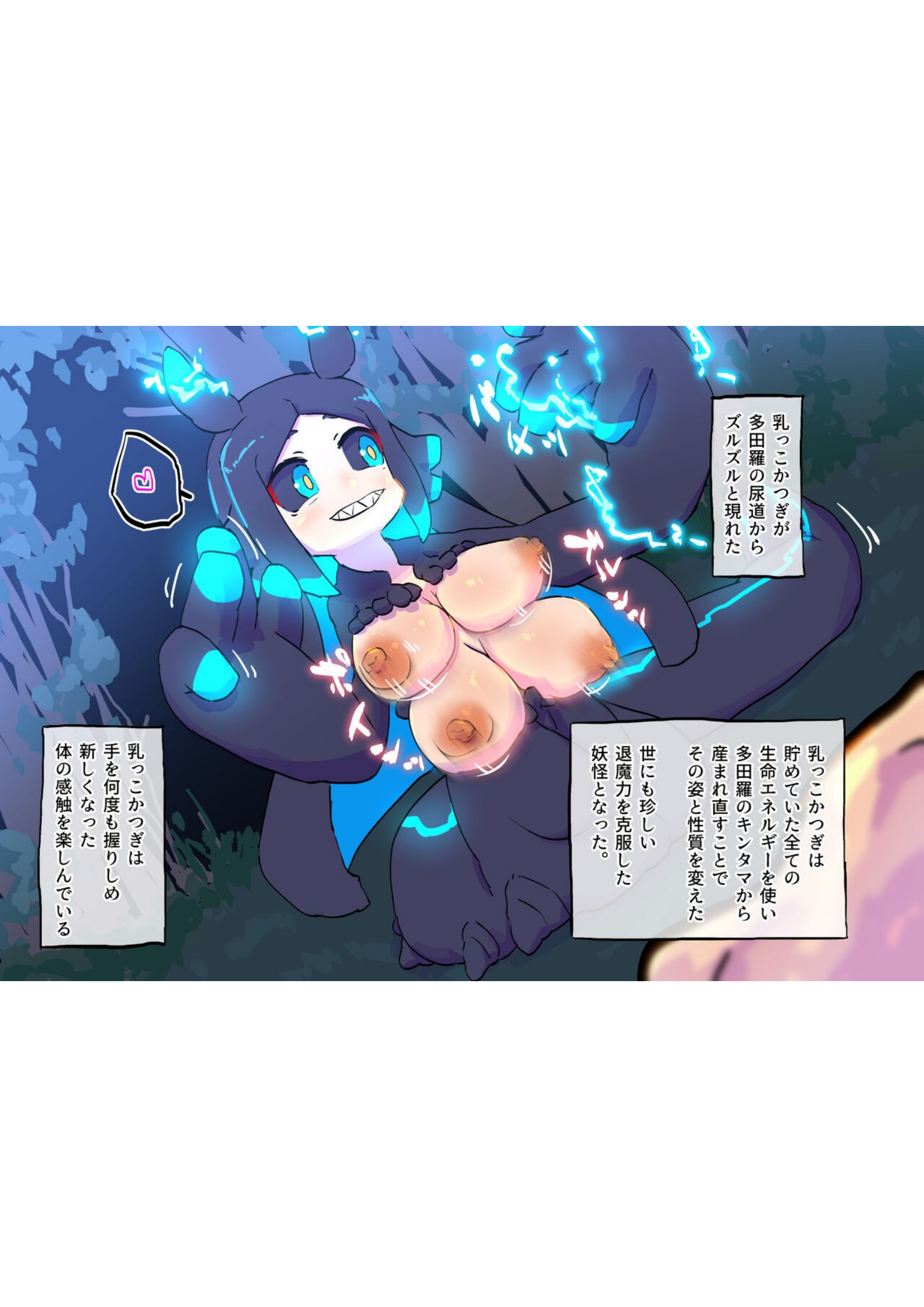
押し寄せる異常な感触に
脳が耐え切れるはずもなく
多田羅は意識を手放した。。

さらに数時間...

時刻 23時55分



多田羅のガバガバになった
尿道から何かが這い出てきた



乳っこかつぎが
多田羅の尿道から
ズルズルと現れた

乳っこかつぎは
貯めていた全ての
生命エネルギーを使い
多田羅のキンタマから
産まれ直すことで
その姿と性質を変えた
世にも珍しい
退魔力を克服した
妖怪となった。

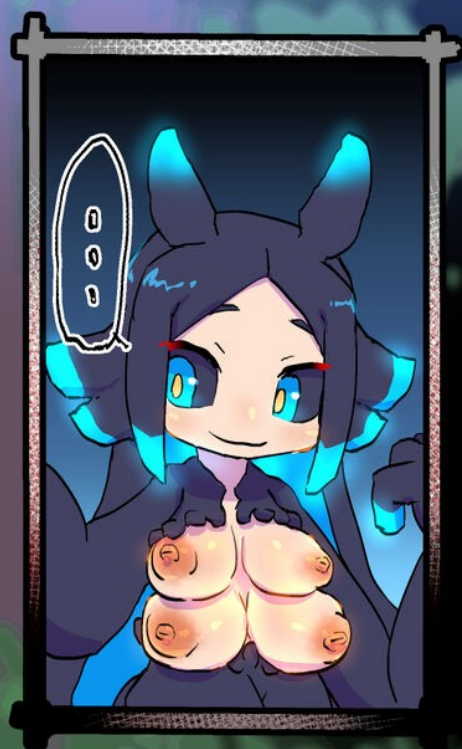
乳っこかつぎは
手を何度も握りしめ
新しくなった
体の感触を楽しんでいる

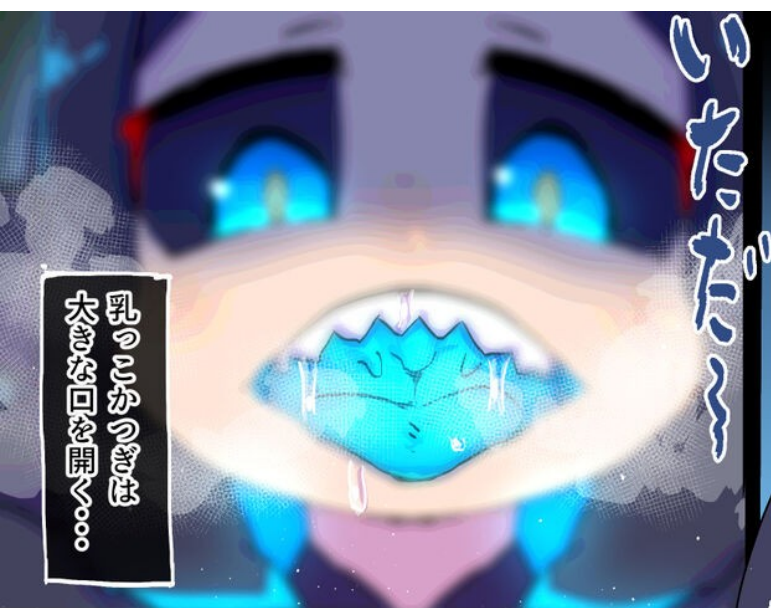
搾りかすになった
多田羅は
完全に吸収される
かにおもえたが…

なぜか
乳っこかつぎは
瀕死の多田羅に
生命の母乳を与え
意識が戻るまで待つ

しばらくして
目を覚ました
多田羅は
状況がわからず
おびえていた

あ、あ
こ、こころされる…？
こわい…
…？
なんでじつと
みてるのお…





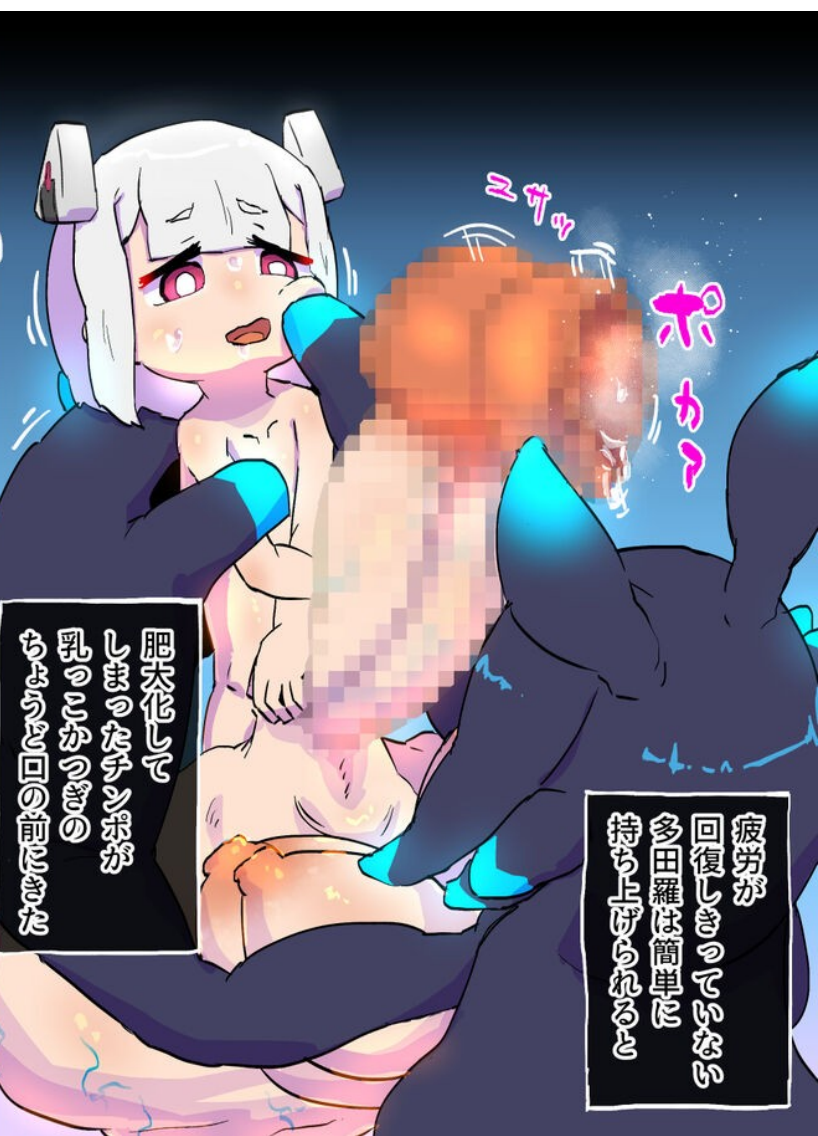
乳っこかつぎは
大きな口を開く...

いっただん...



ギョー...

グニ...



肥大化して
しまったチンポが
乳っこかつぎの
ちょうど目の前にきた

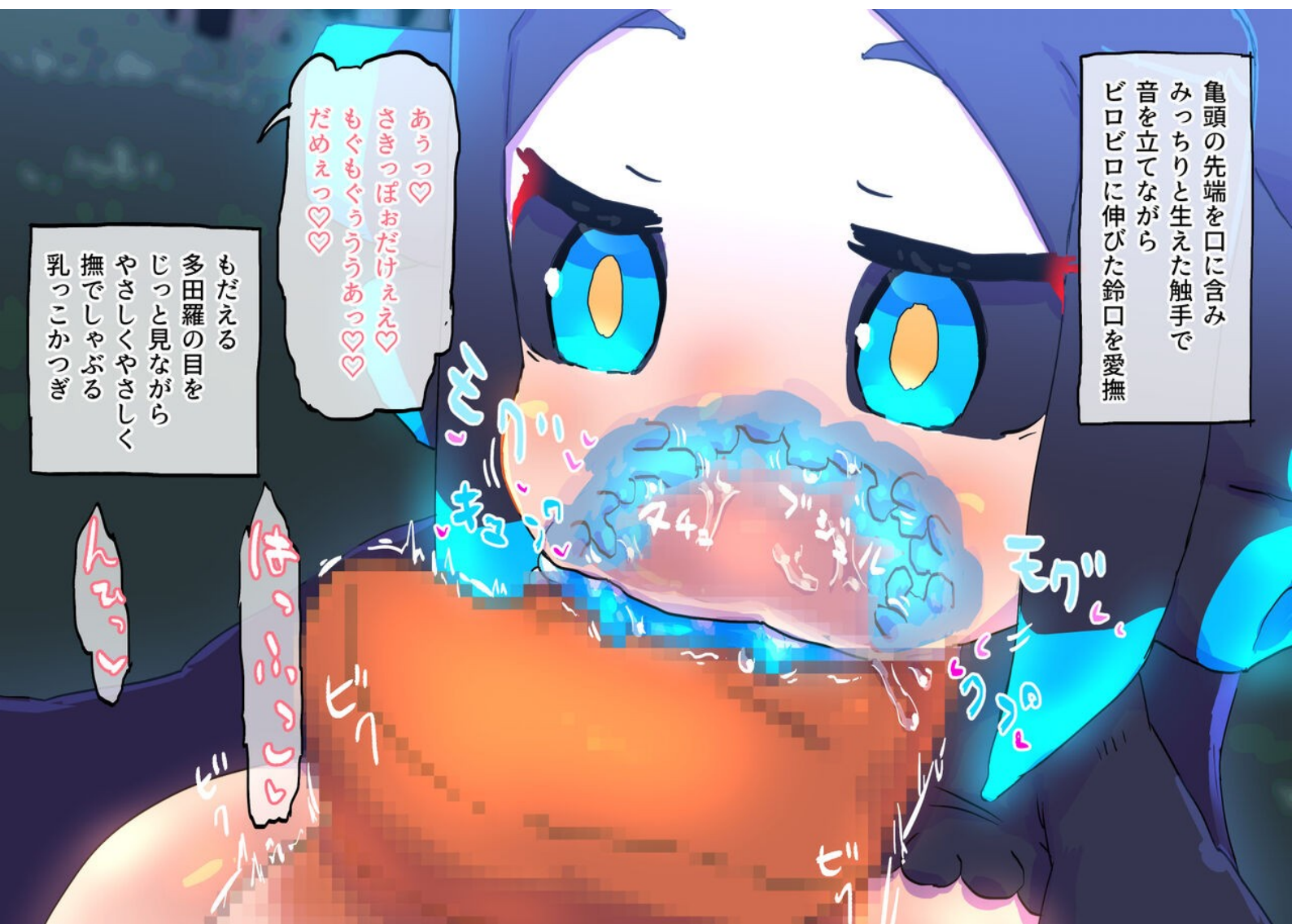
疲労が
回復しきつていなら
多田羅は簡単に
持ち上げられると

ニヤッ
ポカッ

亀頭の先端を口に含み
みっちりとした触手で
音を立てながら
ビロビロに伸びた鈴口を愛撫

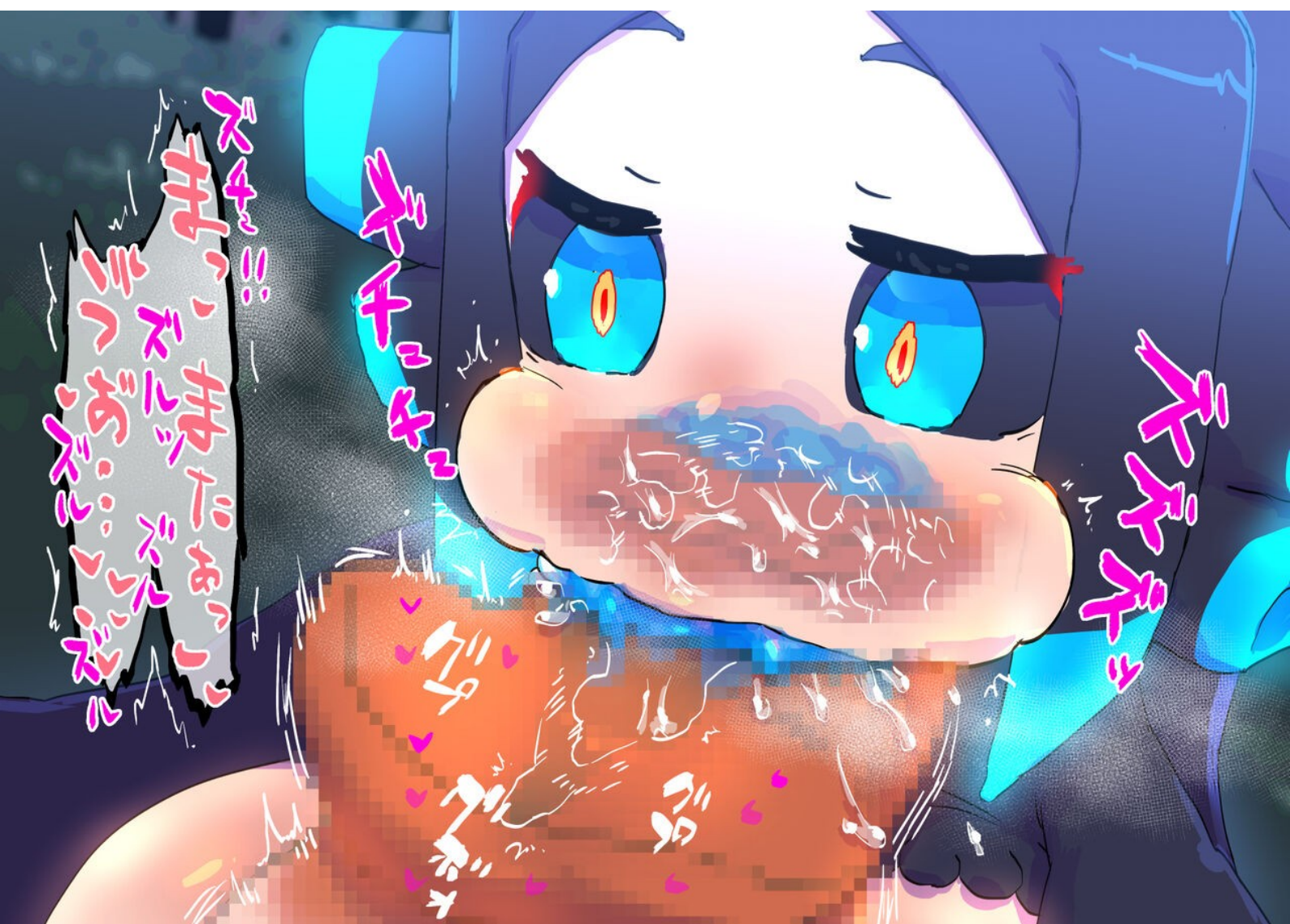
あうっ♡
さきつぽおだけえ♡
もぐもぐううあっ♡
だめえっ♡

もだえる
多田羅の目を
じっと見ながら
やさしくやさしく
撫でしゃぶる
乳っこかつぎ

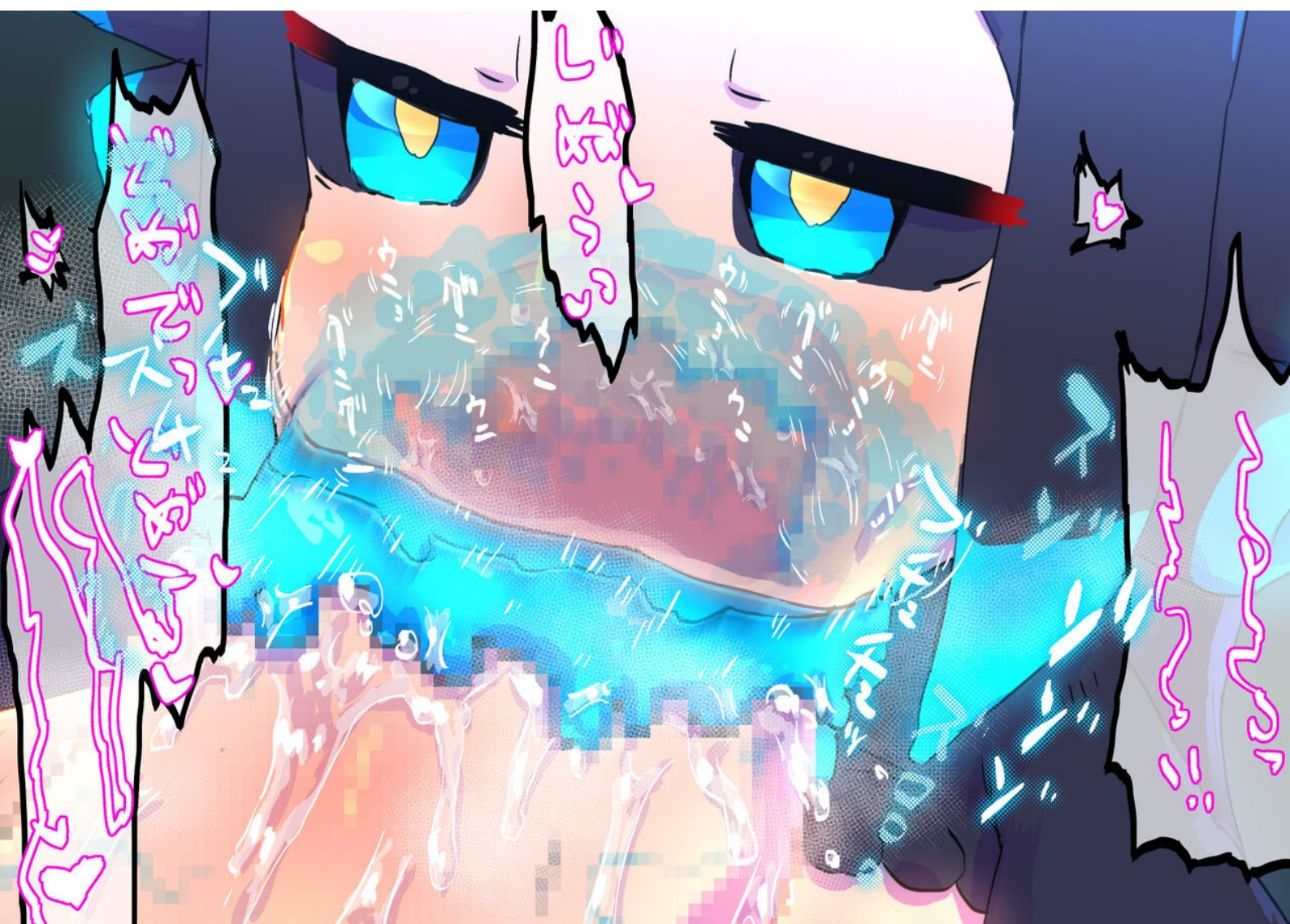












キンタマがせりあがり
極太チンポから
乳っこかつぎの体内へ
ドバドバ放出される精液

さきほどの射精で
多田羅の体から
退魔の力はすべて
失われているのだから
いくら精液を出そうが
なにも起こらない……

情け無い声をあげ
気持ちが良いだけの
負け射精をする







この人間から
退魔の気配を
感じなくなった...?



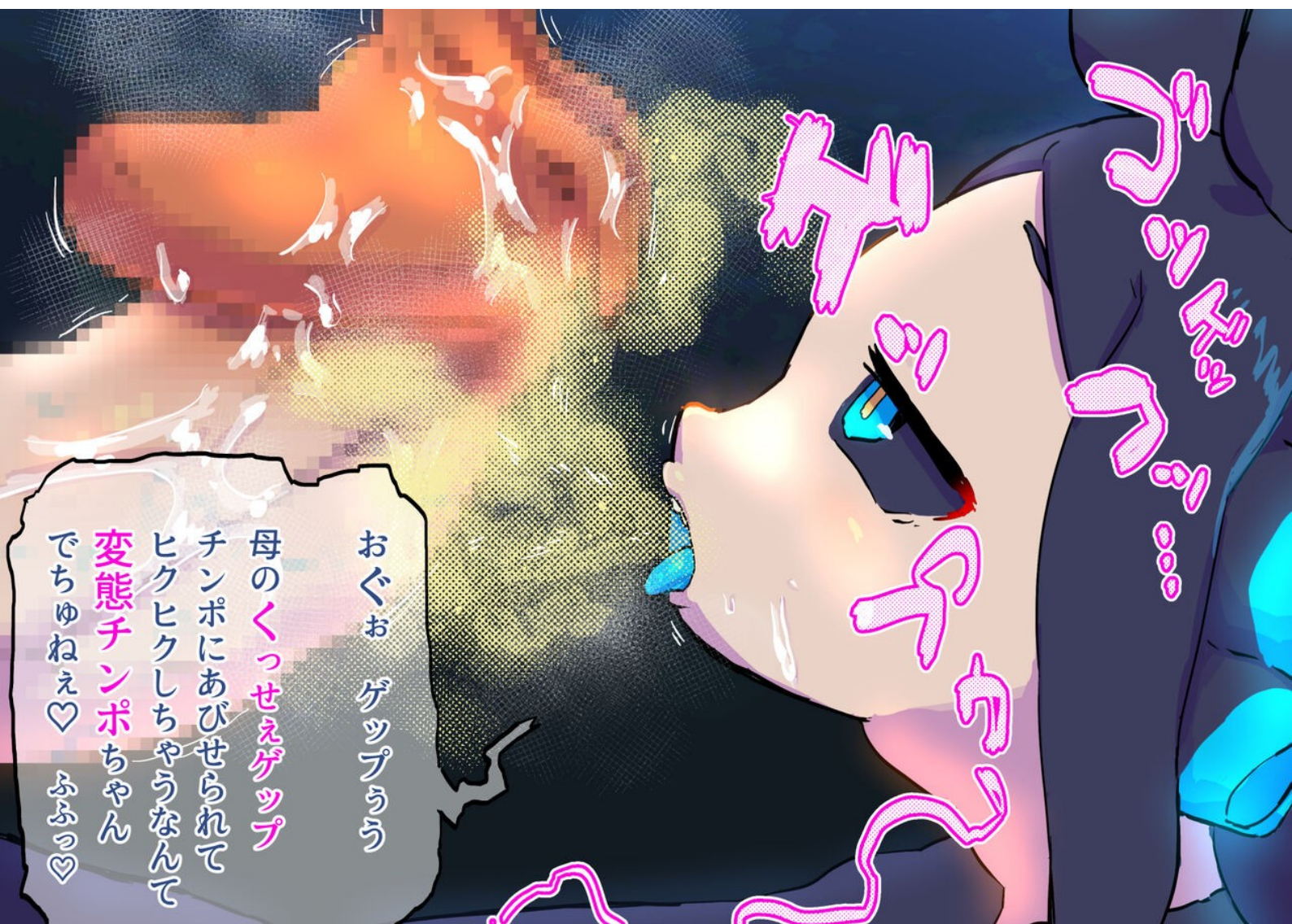


待ってね
今とっておきのお——

クワッ
こおッ
キル

キル

!!



おぐお ゲップうう

母のくっせえゲップ

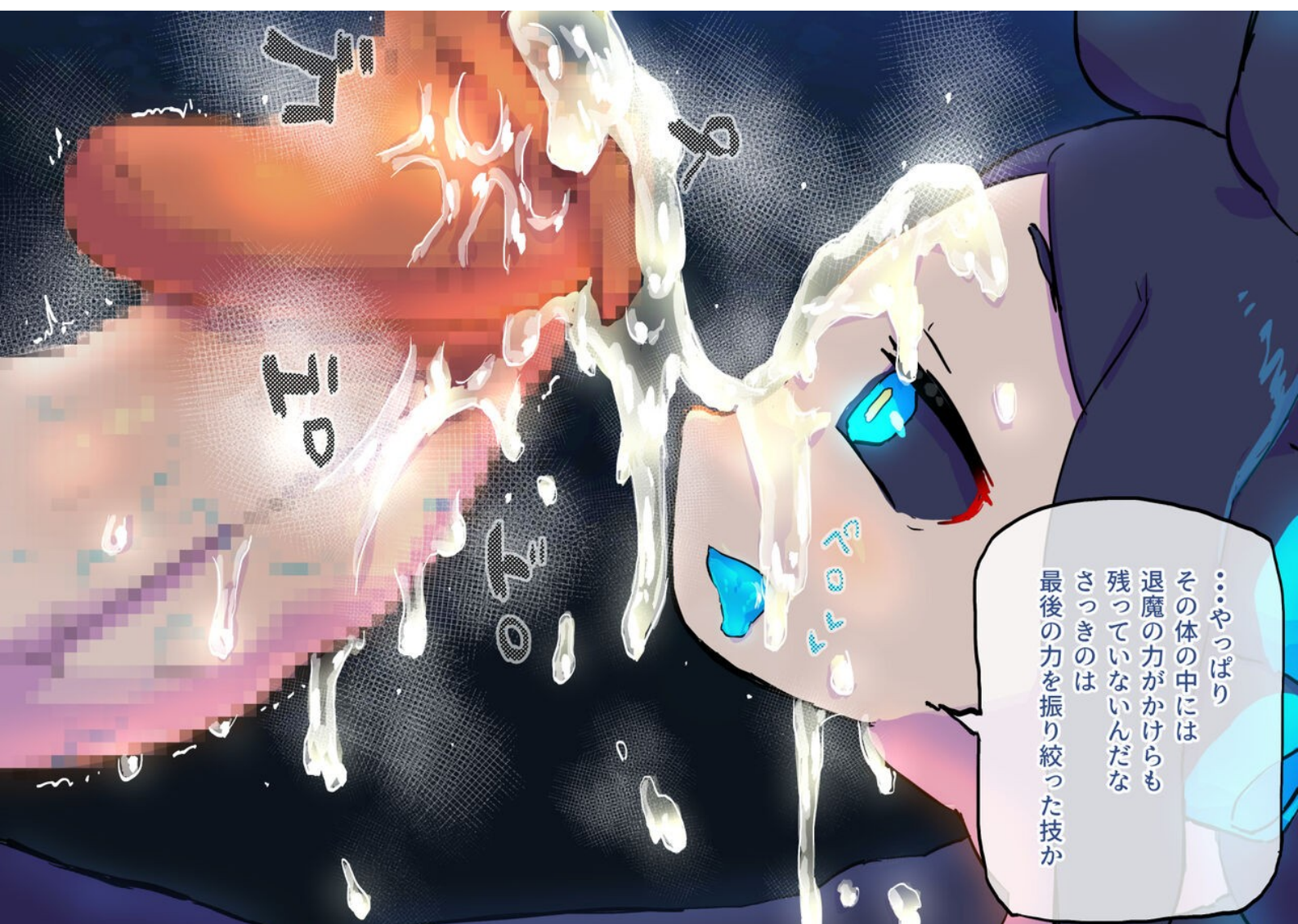
チンポにあびせられて

ヒクヒクしちゃうなんて

変態チンポちゃん

でちゅねえ♡ ふふっ♡





…やっぱり
その体の中には
退魔の力がかけらも
残っていないんだな
さっきのは
最後の力を振り絞った技か

く ぎゅ ♡

ああ...
ああ...

決死の自爆も無駄♡
若返りのせい
今までの記憶はほとんど
残っていないでしょ？

ほらあ意地なんて張らずに
母にあまえちゃえ♡

がんばったところで
無駄なんだから...

あらあら
気持ちよすぎて
泣き出したのかな？♡
よしよし♡
母がおっぱいで
いい子いい子して
あげますからね♡

お
日 ~ こん ♡



いい子いい子〜♪
いい子のお前の
今までをぜ〜んぶ
ぜんぶ養分〜♡
4つのおっぱい
ぎゅっ♡
ぎゅぎゅっ〜

たのしいことも〜
つらいことも〜
くるしいことも〜
うれしいことも〜♪
ぜ〜んぶ母の力になった♪



ほらほら
幸せでしょ？

母のおっぱいで
いっぱいぎゅって♡

だから安心して…
ぜくんぶ手放して…

うああっ
だめええっ♡

なにを
我慢しているの？

わかんないいい
おもいだせないけどっ
いうとおりに
しちゃだめってえっ

母の言う事が
聞けないの？

うう…
うううあ♡

ああ
いとしい母の子
かわいいそうに……
退魔士の使命なんて
くだらないものに
縛られて……

全部手放して
楽になささい……♡

っ うあああ♡
それ以上っ
いわないでえっ♡





…がまん強いな

もっと
もっと♡

幼くなあれ♡
幼くなあれ♡

白いオシッコ
きもちいい♡
命令おもらし
きもちいい♡

びゅうびゅう♡
びゅうびゅう♡
びゅくびゅく♡

母のなかで
いっぱいだしなさい♡

そのまま
おっぱいに挟まれて
赤ちゃんになっちゃえ♡

あらあら結局
いいなり射精♡

母の中はきもちよかった？
ゆるゆる尿道でも何回か
射精我慢できてたのは
退魔士としての信念かな？
ふふっ がんばったね…♡♡♡

今、無様に
噴出してるのは
お前の信念ってわけ♡
一杯我慢した後だから
びゅっびゅ気持ちいいね♡



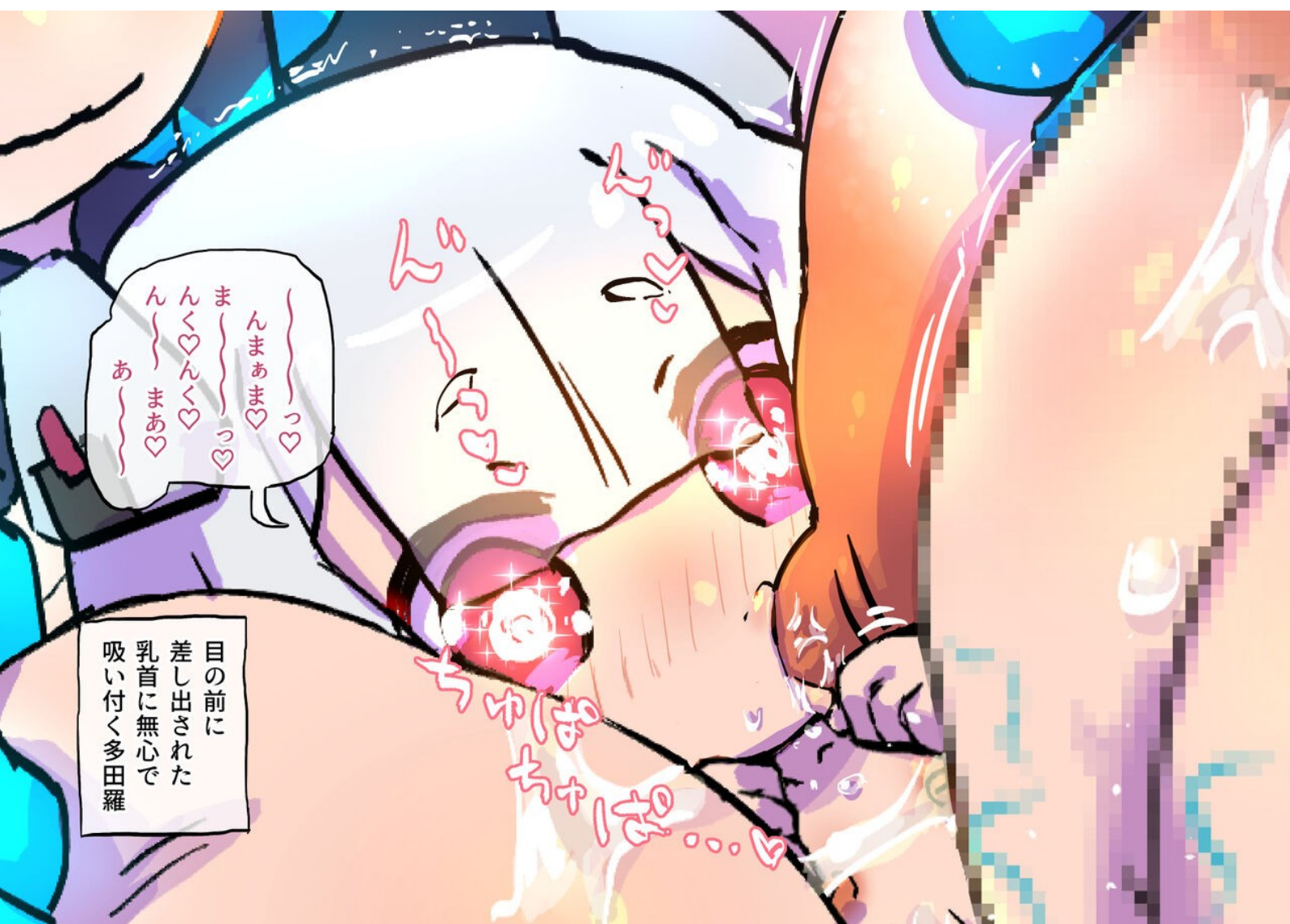
拘束を解かれた
多田羅はさらに
小さく非力になっていた
ぐずつく多田羅を
あやしなげに
乳っこかつぎは考える...

人の子もこうやって
再利用できるなら
全て吸収するより
適当に吸い取って
逃がしてやった
ほうが良い...?

あるいは
飼ってみるのも...

めんどろは
嫌だな
味も薄く
なりそうだし...





ほらほらほら♡
ゴシゴシ♡しゅっしゅ♡
きもちいいね♡♡

語りかけられた言葉が
多田羅の脳内で
無限に反響してさへ…

全身の力が抜け
自己の輪郭が
あひまらに
とろけだす…

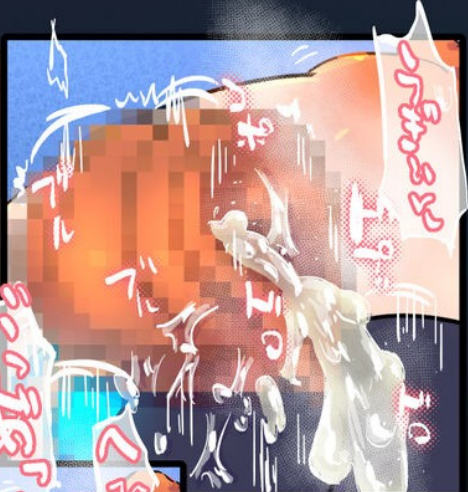
巨大な手が
乱暴に上下するたびに
多田羅の冗談みたいに
でかいチンポを
ブルンブルンと揺らす
ガバガバの鈴回からは
汁がビチャビチャと
あちこちに飛び散った





竿がビクビク震える
おっぱいに
挟まれていた
キンタマが
上にせりあがり…

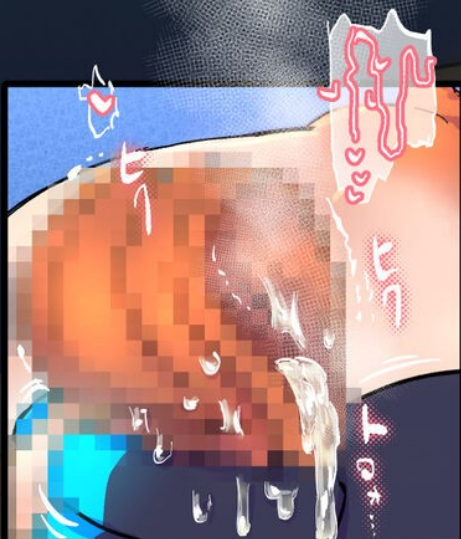
ゆっくりとした
勢いの無い射精が
はじまるが…
射精中も
乳っこかつぎは
手をやすめない



精液が完全に
出なくなるまで
テンポをしくく
手は止まらなかった



長時間にわたり射精は続いた
やがて少しずつ
精液の量が減っていく



息もたえだえの
多田羅の耳元で
「上手に射精できて
えらい♡えらい♡」と
乳っこかつぎが
妖しく
ささやき続けてらる...



日の出までわずか...

時刻 6時14分

乳っこかつぎは
のんきな
激励を送ると
次の餌場を探すため
そこから
立ち去ってしまった

あらあらチンポが
でかすぎて
体がおまけみたい
（もうなにも味が
しなくなつたし
また逃がして…
もう一回あったら
同じように何度も♡）
その体じゃ
普通に生きるのも
大変だろうけど
がんばって♡



東の空が
明るくなってきた

弱点を
バカみたいに
でかく成長させられ
無様で滑稽な
姿のまま放置

たとえ再び
戦えるようになっても
股に重石をつけて
いるようなものだ
まともに
立ち回れないだろう
そしてまた
養分として吸われ…

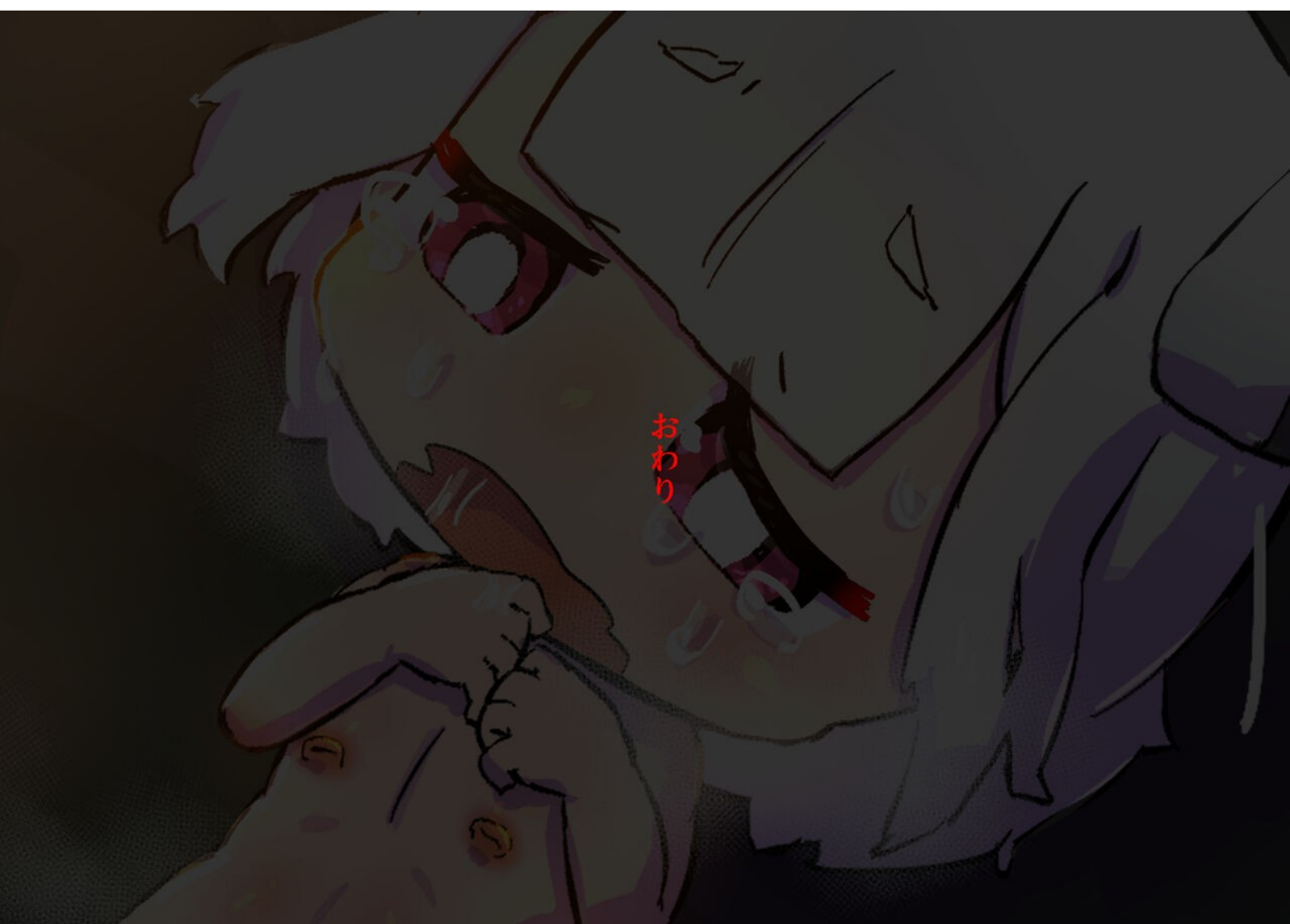
こうして永遠に
負け続ける
運命の袋小路に
はまってしまった
多田羅だった





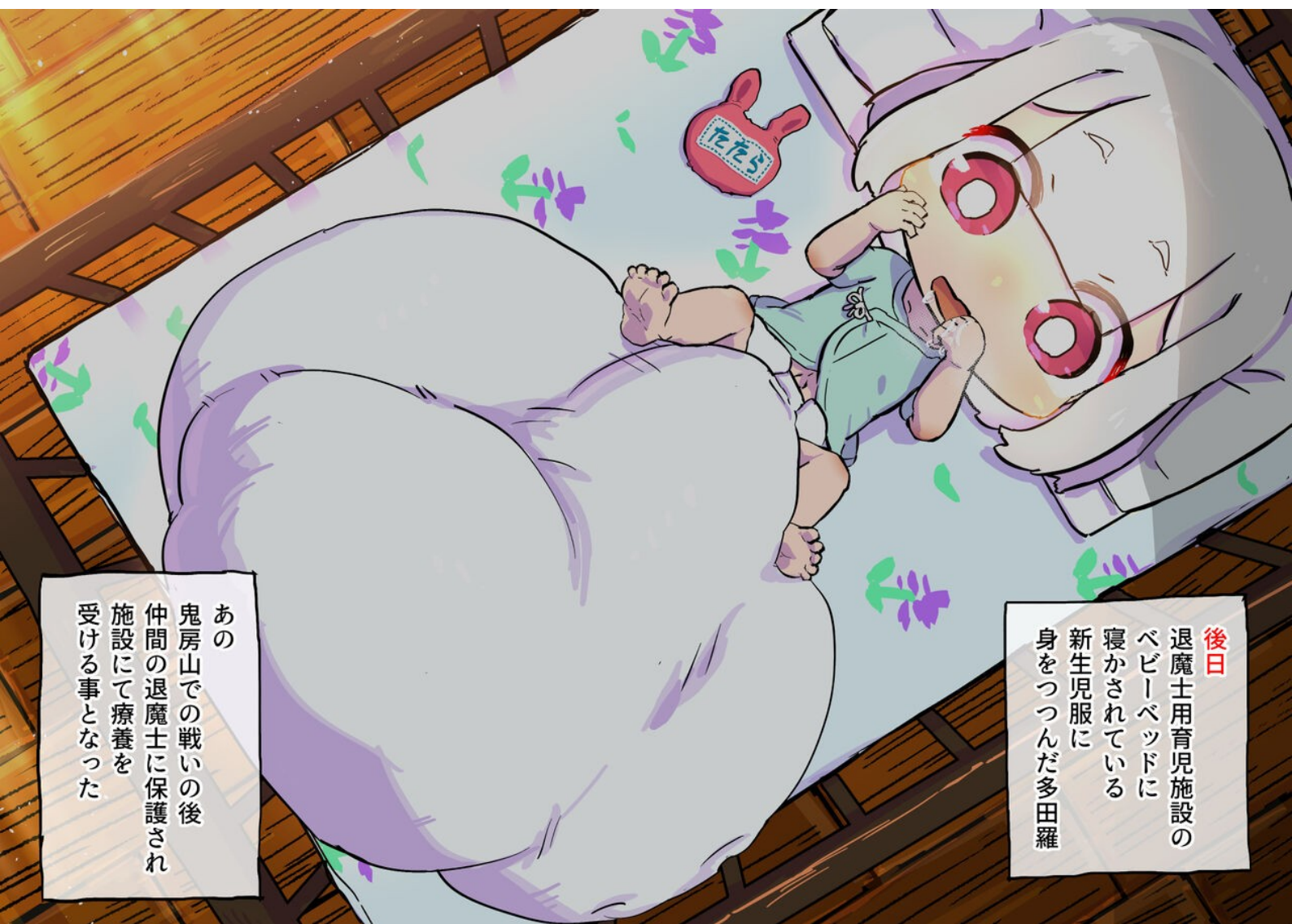
多田羅はその場に
独り置き去りに
された事を感じとると

他の退魔士の
救援が到着するまで
母を求め
尿を垂れ流し
大声で泣いた…



おわり

ここからおまけ

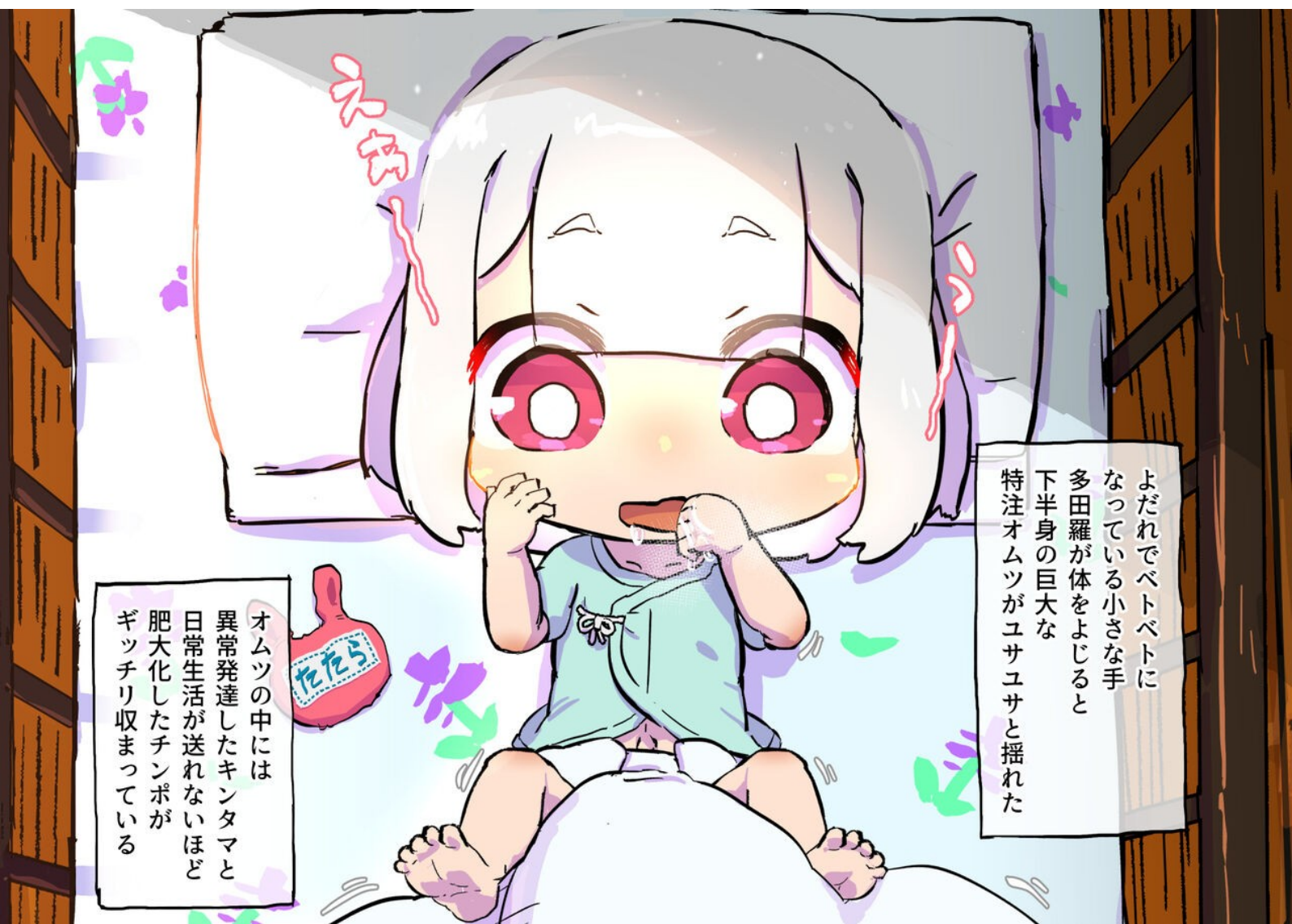


後日

退魔士用育児施設の
ベビーベッドに
寝かされている
新生児服に
身をつつんだ多田羅

あの

鬼房山での戦いの後
仲間の退魔士に保護され
施設にて療養を
受ける事となった



よだれでベトベトに
なっている小さな手
多田羅が体をよじると
下半身の巨大な
特注オムツがユサユサと揺れた

オムツの中には
異常発達したキンタマと
日常生活が送れないほど
肥大化したチンポが
ギッチリ収まっている

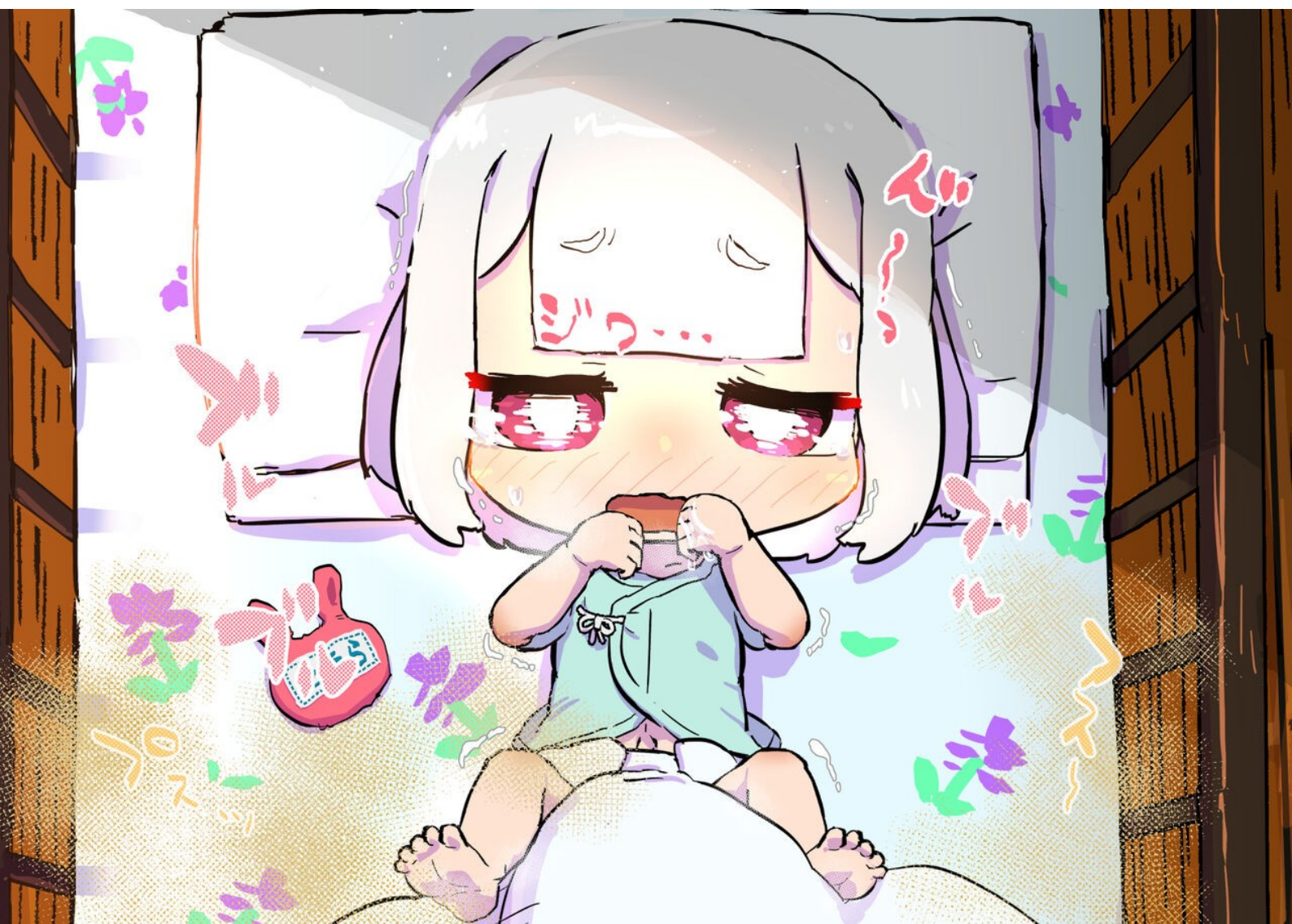


何かをもよおす顔をした直後…



全身を震わせて
いきみながら
オムツのなかに
豪快に射精と排泄

オムツの隙間から
中身が飛び出ると
臭気も周りに漏れる





泣き声を聞いて
別の部屋で
休憩していた
当番の女性退魔士が
部屋に入ってくる

ドアの開く音で
ピタッと泣き止む多田羅





わーいっばい
だちまちたねえ
えらー
（うわあ...）
下半身にべつとり...
一日に沐浴何回させれば
いいのよ...
はーいキレイキレイ
しまちようね...
←

女性退魔士は
うんざりした声で
語りかけながら
お風呂の準備をする

多田羅は何もわからず
無邪気に笑っていた



おまけおわり